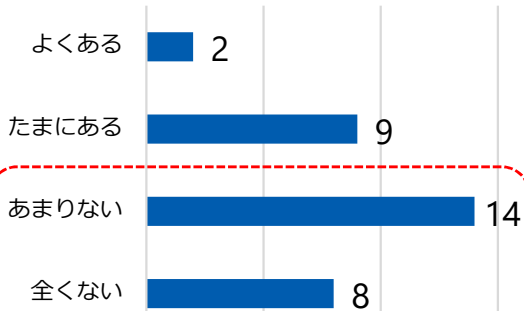


生徒の「薬害」への意識＜授業実施前＞（山梨県立甲府城西高等学校）

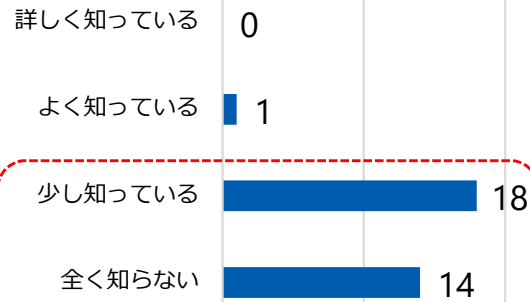
問1 「薬害」に関するニュースを目にしたことはありますか

n=33



問2 「薬害」について、あなたはどの程度知っていますか

n=33

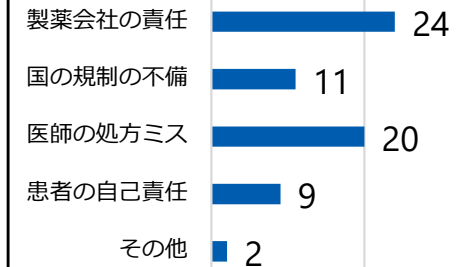


問3 「薬害」として思いつく事例を挙げてください（自由記述）

- ・紅麹（3件）
- ・薬害エイズ事件（3件）
- ・クロロキン事件
- ・陣痛促進剤の使用による母親の死亡
- ・薬を飲んだら眠くなった
- ・薬の飲み合わせが悪くて病気が悪化する
- ・違法なサプリ
- ・異物混入、後遺症
- ・薬物乱用、農薬による健康被害、市販薬の多量接種
- ・副作用
- ・わからない／知らない

問4 「薬害」の原因として、何が考えられますか（2つまで選択）

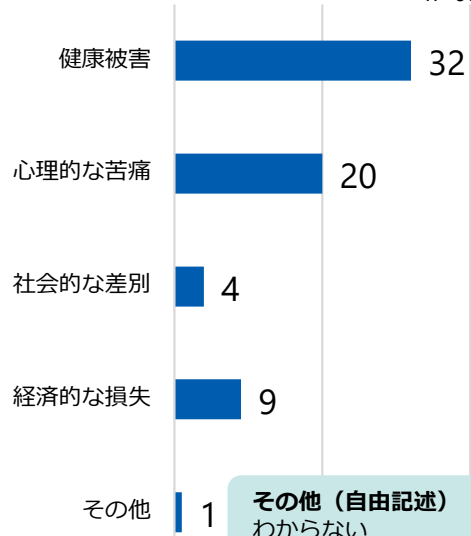
n=66



その他（自由記述）
医師の診断ミス／オーバードーズ

問5 「薬害」によって、どのような被害が起こると思いますか（2つまで選択）

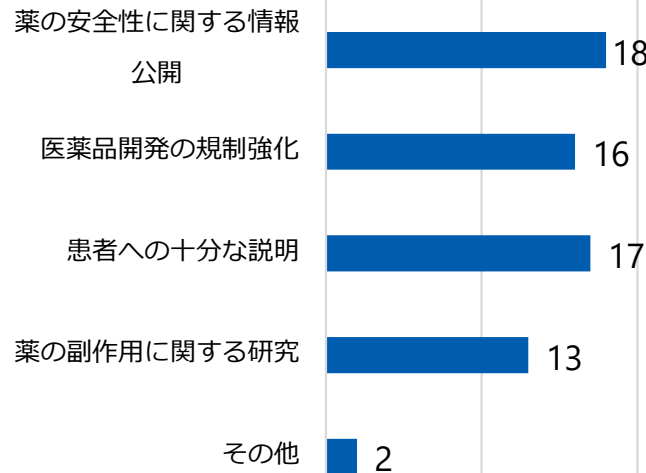
n=66



その他（自由記述）
わからない

問6 「薬害」を防ぐためには、どのようなことが大切だと思いますか（2つまで選択）

n=66



その他（自由記述）
医師の慎重な診断／わからない

問7 薬を服用する際、あなたはどのようなことに注意していますか

<用法・用量>

- ・説明書を読み正しい服用ができるようにする
- ・服用する量。多数の薬を服用する時
- ・服用量の記述を見ようとしている
- ・頻度や使い方を正しく守る。取扱説明書をよく読む。
- ・何錠服用するか
- ・薬の飲み合わせが大丈夫か
- ・空腹時に飲まない、一日に2回以上飲むときは時間を空ける
- ・1日何個と決められているからしっかり守る
- ・飲む回数、量
- ・服用回数や頻度をよく見る
- ・使用量や方法の説明をよく読んでいる。飲む時間を開けたりする

<効能・効果、副作用情報>

- ・効果と副作用に注意している
- ・副作用をきちんと理解してから服用する
- ・副作用を気にする
- ・自分の症状にきちんと効くか調べる
- ・自分にあっているかどうか
- ・飲んだ後の副作用や薬を飲む量など
- ・副作用をみる
- ・効果や、副作用。一緒に服用してはいけない成分

<医師の指示、説明書の確認>

- ・医師から言われた通りの時間や数を飲むようにしている
- ・医者と言われた服用の仕方を守る
- ・医師の指示を聞いて用法用量を守って服用している
- ・医師に言われた通りに飲むこと
- ・お医者さんの説明をしっかりと聞く
- ・医者の話を聞く
- ・市販薬を購入する際は、必ずパッケージの裏面を確認し、説明書をよく読む。病院の先生の説明をよく聞く。
- ・説明をしっかりと聞いて。風邪を引いてる時はしっかりと薬を飲むこと。
- ・説明をしっかりと服用する前に読んでいます
- ・説明書をしっかりと読んだり、注意しなければいけないことをちゃんと読む。
- ・本当大丈夫か調べてから買うようにする。
- ・副作用にどのようなものがあるか確認する。

<その他>

- ・あまり気を付けてない
- ・知らない

生徒の「薬害」への意識 <授業実施後①> (山梨県立甲府城西高等学校)

問1 今回の授業で「薬害」について新たに知ったことは何ですか
(自由記述)

<薬害とは>

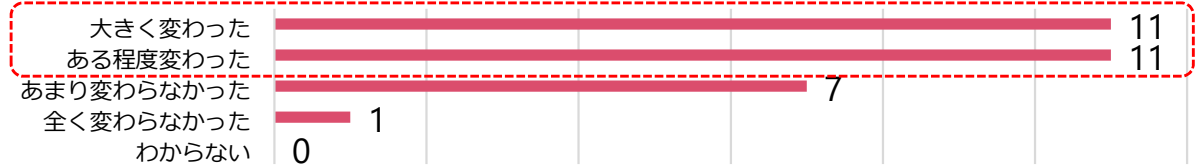
- ・薬害は今までにたくさんあって多くの被害者がいること
- ・薬害によって苦しんでいる人が沢山いること
- ・薬の使い方を間違えると副作用で今後の人生が変わることを知った
- ・薬害の影響のデカさ
- ・薬害は、医薬品等による健康被害が社会問題となるまで規模が広がったもの。薬を安心安全に使うには、不明な点薬剤師に相談すること、各医薬品の添付文書を読み、理解することが大切。
- ・単なる副作用ではないこと。薬害で今まで通り生活できなくなったり、亡くなってしまった人がいること。
- ・海外で対応された薬でも日本ではまだ使用が認められているものがあり、被害者が増えてしまったという事例
- ・薬害とは何か。薬害は何が原因で起こるか。
- ・薬害はたくさんある。困ったらすぐに相談する。
- ・薬害とはどういうものなのか知れた
- ・薬害とは何か知った
- ・薬害とは国や施設がルールに従えば防ぐことができることが多い事件が多いことがわかった
- ・薬害とは不適切な薬の使用による健康被害などのことだと知った。
- ・薬害は、薬の使用の仕方がわるいと起こる副作用的なものだとわかった。
- ・副作用によって体に異変が起きてしまったりしてしまうこと
- ・可哀想
- ・薬害のほとんどは事故であると知った
- ・いつ自分に襲い掛かるか分からない怖い害
- ・身体に影響をおよぼす怖い薬

<教訓と対応>

- ・製薬会社や医療機関の責任だけでなく、自分自身の判断のあまさや選択の正しさをも問われる問題だということ。
- ・薬害を防ぐためには医者や薬剤師さんの説明だったり、ネットで薬の成分を検索して自分に合った薬を選ぶことが大切だと知ることが出来た。
- ・医者側だけでなく消費者側にも責任はあること
- ・消費者と医師や薬剤師が正しい情報の交換ができることが大切だということ
- ・消費者主権があること
- ・情報の伝達が遅れたことによって薬害が起こったと初めて知った
- ・情報共有が大切だということがわかった
- ・薬に対して知識をしっかりと身につけておく
- ・薬について検索できるサイトがあること
- ・薬害には副作用があるとわかった。インターネットでは薬を調べられるサイトがあると分かり活用したいと思った。
- ・医者以外に薬剤師がいることを知った

問2 授業を受ける前と後で、「薬害」に対するあなたの考えは変わりましたか

n=30



問3 問2で「大きく変わった」「ある程度変わった」と回答した方にお聞きします。具体的にどのように考えが変わりましたか(自由記述)

<薬害に対する意識>

- ・薬害とは薬を飲むことで起こる副作用で仕方が無いものだと思っていたが不適切な薬の使用による健康被害だと知り、自分で薬の情報を調べたり注意しながら使ったりすることが大切だと授業を通して思った。
- ・薬害の種類はそんなにないと思っていたけど、たくさんあってびっくりした
- ・より身近にある事が分かった
- ・薬害についての知識が身についた
- ・知らなかったことを知ることができた
- ・薬にはどのような危険性があるか

<薬害の発生原因への意識>

- ・薬害は医師、国も関わっている
- ・薬害は製造している方の不手際や隠蔽ばかりだと思っていたが消費者の方にも責任があるという考えになった
- ・今までは薬害問題を起こした企業側に全ての責任があると思っていたけれど、被害者側にも問題に巻き込まれないための注意をする必要があると思った。情報の信憑性を図ったり、周りに相談したりと、自分のためにできることをしていかなければいけない。
- ・医師側などの人達だけに責任があると思っていたけれど私たちのような消費者側にも消費する責任があると思いました

<薬害による個人や社会に対する影響への意識>

- ・薬害は薬の副反応だけではなく、医薬品による健康被害が社会問題となるまで規模が広がったものということが分かった。薬害の被害者の話を聞き、今後同じようなことがないようにするにはどうしたらいいか考えることが出来た。
- ・薬害の怖さ

<薬害を防ぐ方策への意識>

- ・薬害は意識次第で減らすことが出来る
- ・消費者にも常に意識をしながら生活すれば防げるということがわかった
- ・薬害とは仕方なく起こることだと思っていたが防ぐことのできる出来事と知った
- ・自分が使用する薬についてもっと理解して服用しようと思った。処方された薬や薬局で売っている薬も使い方を誤ると危険なものになると改めてわかった。
- ・学ぶ前よりも薬剤師さんなどの方に聞いていこうとあらためて思うことが出来た
- ・薬には飲み合わせがあるので成分を調べたりして飲み合わせに注意していきたいと思った
- ・薬害にあった人の話を聞いて、今まで自分は何も薬害について知らなかったけど、二度と起こして欲しくないという思いを私達も伝えていくために、薬の知識を身につけたり、情報を得ないといけないと考えが変わった。
- ・薬害について知って、成分などを確認することが大切だとも思った
- ・薬害のない社会を目指すことができると思えるようになった。

生徒の「薬害」への意識 <授業実施後②>（山梨県立甲府城西高等学校）

問4 薬害が起こらない社会にするためには、どのようなことが必要だと考えますか（自由記述）

<国民・消費者として>

- ・一人一人が使う薬についてよく知ること
- ・医師や薬剤師の注意も必要だが薬を使用する一人一人の確認が大切
- ・一人一人の意識が大切
- ・消費者一人一人が薬の副作用や効能を良く知り、分からないことがあったら医者・薬剤師などに相談する
- ・不安に思うことがあるのであれば、医療機関に全てを頼るのではなく、まずは自分で調べるところから始める。様々な情報を取捨選択し、疑問があれば医師や薬剤師、くすりの相談窓口などに相談をする。このように自分から行動できる力が必要だと思う。
- ・薬の安全性についての知識を身につけたり、副作用があることに気をつけて薬を正しく使用する。PMDAなどのホームページで薬について理解するために調べたりする。
- ・薬害についてもっと消費者が知っていくことが必要
- ・どのような薬なのか副作用はどうかかなど薬剤師さんやお医者さんに聞くことが大切
- ・自分での正しい情報収集や不安なことを医者、薬剤師さんなどに相談すること。
- ・医者や薬剤師さんに自分が疑問に思ったことや不安に思ったことを伝えることや、実際に薬を使ってみてその症状を伝えることが必要だと思う。
- ・1人1人が薬の安全性を見直して意識していくことが薬害を起こさない1番のポイントだと思った
- ・1人1人が薬に対しての知識をつける
- ・消費者側が色々な事を知ること、知る機会を得ること
- ・薬害について関心を持つこと
- ・しっかりと確認する
- ・提供する側は審査を十分に行い、使用する側も薬の危険性を理解し、正確な知識を持つことが必要。
- ・市販薬を服用する際には、説明書をよく読み、分からない点や不安な点、聞きたいことがあれば医師、薬剤師に相談すること。被害者の話を聞き、今後同じようなことを繰り返さないように注意する。
- ・しっかり聞いて調べること
- ・薬の使い方を間違えないこと
- ・消費者主権を駆使して製造者との信頼で繋がること
- ・情報の共有をする
- ・国の薬に対する姿勢を改めて、自分達の知識をつける
- ・どの成分が含まれているかみる
- ・成分をしっかりと確認し用量などを確認しながら使うことが大切

<製薬会社として>

- ・製造側は副作用などの情報の開示をしたり消費者は成分をしっかりと確認することが大事

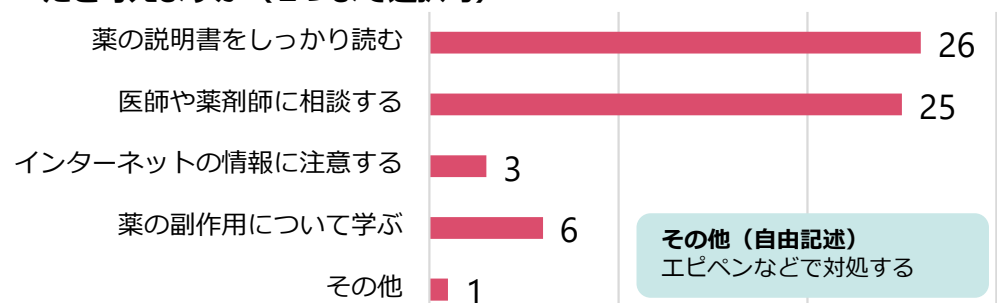
<医療従事者として>

- ・専門家に聞きやすい環境を作る
- ・医療の人たちがしっかりとすることなど
- ・薬品について詳しいひとが何度も確認する

<国として>

- ・被害者救済や再発防止体制を確立する
- ・国が管理する

問5 消費者として、薬を安全に使うために、どのようなことに注意すべきだと考えますか（2つまで選択可）



問6 授業で学んだことを、周りの人に伝えたいと思いますか

n=30

